

授業科目名	【G】 【EF】	特殊講義(特別刑法Ⅱ) 特殊講義(特別刑法Ⅱ)	区分 選択	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目						
授業形態	対面授業						
担当形態	単 独	【G】 【EF】					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	経済活動における刑事規制―「経済刑法」―を学ぶ			担当者	小野上真也		
授業概要	【概要】	本講義では「経済刑法」を学びます。経済活動により、他の人・組織に何らかの不利益を生じさせ、それが犯罪にあたる場合には処罰の対象となります(経済犯罪)。経済犯罪は、いかなる場面で発生するのか、いかなる要件の下で処罰されるのかを検討します。基本的に講義形式で行いますが、ときおり、受講者に意見を求め、それを基に議論する双方向授業も実践します。なお、毎回レジュメを提供する予定です。レジュメには、具体的な事案を数例挙げます。授業では、自分はそれらにつきいかなる結論を採るか(その理由付けも含め)考えながら受講して下さい(また、予習・復習にもレジュメを活用して下さい)。					
	【到達目標】	刑法総論・各論の知識を経済刑法解釈に応用できるようにすること、自らの力で考え抜き一定の帰結を説得的に表明することができるようにすること、が本講義の達成目標です。					
履修条件	特に条件を設定しませんが、履修者が刑法総論・各論の各知識を有していることを前提に、本講義を進めます。本講義の内容は、民法、会社法、金融商品取引法、特定商取引法、税法、独占禁止法等にもかかわるので、刑事法以外にも、様々な法領域に興味をもって学修して下さい。						
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	○ (やや当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)					
他科目との関連性	刑法総論/刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ、刑法各論/刑法(各論)Ⅰ・Ⅱなどの刑事系科目のみならず、民法や会社法などの民事系科目の知識が、本講義をより良く理解するために重要です。						
教科書	斉藤豊治＝浅田和茂＝松宮孝明＝高山佳奈子編著『新経済刑法入門[第3版]』(成文堂、2020年)						
参考書	山口厚編著『経済刑法』(商事法務、2012年)、芝原邦爾＝古田佑紀＝佐伯仁志編著『経済刑法 実務と理論』(商事法務、2017年)、芝原邦爾『経済刑法研究 上』『経済刑法研究 下』(有斐閣、2005年)、芝原邦爾＝西田典之＝佐伯仁志・橋爪隆『ケースブック 経済刑法[第3版]』(有斐閣、2010年)、高橋則夫＝松原芳博編『判例特別刑法』(日本評論社、2012年)、高橋則夫＝松原芳博編『判例特別刑法[第2集]』(日本評論社、2015年)、高橋則夫＝松原芳博編『判例特別刑法[第3集]』(日本評論社、2018年)						
評価方法	①毎回のミニクイズの回答(正解)状況＋②複数回提示するレポートの内容(あわせて100%)						
フィードバック方法	授業内でミニクイズ等の回答・解説を行いません。						
評価基準	上記授業単元の内容につき、ミニクイズおよびレポートにより、問題の所在、議論状況をよく理解し、自分の言葉で、私見を的確・適切に表現できた者には、ミニクイズおよびレポートの成果に応じて、「S」または「A」を与えます。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、課題未提出など、評価不能の場合には「F」とします。						
その他	学修に際しては、教科書、六法(最新版)を参照して下さい。毎回、レジュメを配信します。予習に際しては、授業内容記載の事項のほか、併せて配信する次回レジュメを活用した上で教科書の該当頁を熟読しておいてください。予習・復習には、各120分程度かかるものと思われます。						

授業科目名	【G】	特殊講義（特別刑法Ⅱ）	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【EF】	特殊講義（特別刑法Ⅱ）	選択		【EF】2		【EF】2
授業回数	授業内容						
1	イントロダクション：経済刑法講義の全体像 予習： 「経済刑法」とは何かにつき関心をもつ。 復習： 本講義で学ぶことの全体像を可能な範囲でイメージする。						
2	経済刑法の概念と対象領域・経済刑法における法益概念 予習： 刑法典と経済刑法の対象領域はどこが異なるかを考える。 復習： 経済犯罪とは何か、その処罰は何を保護するものかを理解する。						
3	法人処罰の基礎理論 予習： 「自然人」と「法人」という概念を確認しておく。 復習： 肉体と精神の無い「法人」を処罰の対象とし得る根拠を考える。						
4	法人処罰論の現代的展開 予習： 企業のコンプライアンス・プログラムが刑事規制に及ぼす影響。 復習： 同一視理論と組織モデルの意義を理解する。						
5	会社法上の犯罪①：特別背任罪の成立要件と不良貸付けの相手方の共犯 予習： 背任罪（刑法247条）と特別背任罪（会社法960条以下）を調べる。 復習： 不良貸付の相手方がなぜ共犯となり得るかを考える。						
6	会社法上の犯罪②：会社財産の危殆化罪・経営の公正に対する罪 予習： 会社財産を危うくする罪とはいかなるものかイメージする。 復習： 今回扱った犯罪の各要件を理解する。						
7	金融商品取引法における「情報開示規制」と刑法 予習： （旧）証券取引法・（現行）金融商品取引法とはいかなる法律か調べる。 復習： 今回扱った処罰規定が何を保護しようとしているか理解する。						
8	金融商品取引法における「不公正取引規制」と刑法 予習： 不公正取引（とくにインサイダー取引）を調べる。 復習： 今回扱った犯罪の成立要件・範囲（射程）を理解する。						
9	営業秘密侵害罪をめぐる諸問題（不正競争防止法） 予習： 刑法典の窃盗罪・背任罪・横領罪成立の限界を確認する。 復習： 営業秘密侵害罪の改正動向を理解する。						
10	広義の刑法における賄賂罪（刑法・会社法・金融商品取引法）と没収・追徴の意義 予習： 没収・追徴という財産剥奪刑（付加刑）の意義を調べる。 復習： 任意的没収・追徴と必要的没収・追徴の違いを理解する。						
11	補助金の不正受給における詐欺罪・補助金不正受交付罪の成否 予習： 詐欺罪および補助金不正受交付罪の罪質を調べる。 復習： 両罪の適用関係について罪数論の観点から再考する。						
12	消費者保護と刑法 予習： マルチ商法をはじめとした消費者被害について調べる。 復習： 消費者被害に対しいかなる刑法的対策が採られているか理解する。						
13	租税法違反の刑事規制 予習： 「租税」とは何か調べる。 復習： 脱税に対しいかなる刑法的対策が採られているか理解する。						
14	独占禁止法違反と刑事制裁・行政制裁 予習： 独占禁止法とはいかなる法律か調べる。 復習： 刑事制裁と行政制裁のもつ意味の違いを理解する。						
15	特殊講義（特別刑法Ⅱ）のまとめ 予習： 第1回から第14回までの講義内容を総復習する。 復習： 特殊講義（特別刑法Ⅱ）のまとめ・ミニクイズ回答を踏まえて総復習						